

町田市民病院中期経営計画（2017～2021年度）及び事業計画の進捗状況について(2021年度上半期)

町田市民病院では、質の高い医療サービスを提供し、安定した病院経営を維持していくために、「町田市民病院中期経営計画（2017年度～2021年度）」及び事業計画を策定し、これに基づき、経営改善を進めております。

このたび、2021年度上半期の進捗状況をまとめましたので、その結果を報告いたします。

添付資料

- ・ 町田市民病院中期経営計画（2017～2021年度）及び事業計画の進捗状況について(2021年度上半期)

町田市民病院中期経営計画（2017～2021年度）及び事業計画の進捗状況について（2021年度上半期）

1. 患者・マーケットに関する取組 ～患者サービスの向上と医療連携の推進～

項目及び中期経営計画の目標値	事業計画目標	事業計画目標に対する結果	主な取組内容	2021年度(上半期)の実績
<p>(1) 患者満足度の向上</p> <p>【2019年度】 入院患者満足度 90% 外来患者満足度 85%</p>	<p>入院患者満足度 90% 接遇満足度(入院) 93% 外来患者満足度 90% 施設合計満足度 90%</p> <p>入院患者アンケートの常時実施の検討</p>	<p>下半期実施</p> <p>未実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> 施設の改善取組 接遇の改善取組 入院患者アンケートの常時実施 	<ul style="list-style-type: none"> 患者満足度調査は10月12日(火)から19日(火)にかけて実施します。 施設の改善として、正面入り口横のベンチの数を増やし、背もたれ付きのものへ変更しました。 入院患者向けアンケートの常時実施については、患者サービス委員会にて実施方法等の検討を行っており、年内に実施をする予定です。
<p>(2) 情報提供の充実</p> <p>【2021年度】 病院ホームページアクセス件数 12万件/月</p> <p>【2019年度】 病院ホームページへのクリニカルパス掲載数 60件</p>	<p>病院ホームページアクセス件数 14万件/月</p> <p>病院ホームページへのクリニカルパス掲載数 60件</p> <p>市民公開講座のWeb開催</p>	<p>7.3万件/月</p> <p>48件</p> <p>未実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> ホームページの迅速な更新 ホームページへのクリニカルパス掲載 市民公開講座のWeb開催 	<ul style="list-style-type: none"> ホームページアクセス件数は7.3万件/月となり、2020年度実績(16.4万件/月)から9.1万件/月の減少となりました。2020年度は新型コロナウイルス感染症(以下、新型コロナ)の感染拡大により病院への関心が高まったことや、院内感染が発生したことでホームページへのアクセス数が増加していました。 引き続き、掲載するクリニカルパスの見直し作業を継続しつつ、掲載数の増加に向けた活動を行います。 市民公開講座のWeb開催に向け、準備を行いました。 2021年2月にリニューアルした産後食をPRするため、広報誌クォーターリーに紹介記事を掲載しました。今後も継続してメニューの紹介を行います。
<p>(3) 医療連携の推進</p> <p>【2019年度】 紹介率 65% 逆紹介率 45%</p> <p>【2020年度】 地域医療支援病院 承認</p>	<p>紹介率 73% 逆紹介率 65%</p> <p>地域医療従事者向け研修 12回 病病連携交流会開催回数 1回/年</p>	<p>紹介率 72.3% 逆紹介率 61.4%</p> <p>地域医療従事者向け研修 4回 病病連携交流会開催回数 0回/半年</p>	<ul style="list-style-type: none"> 地域医療支援病院としての機能強化 地域医療従事者向け研修の実施 病病連携の推進 	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナの感染拡大による紹介制限を行った時期がありましたが、紹介率はほぼ目標どおりとなりました。地域連携枠を経由した診療予約の増加も一因となっています。 逆紹介率(地域医療支援病院基準)については、保健所経由で紹介なしの発熱患者が増えたことによる初診患者数の増加に加え、コロナ病棟患者の若年化による逆紹介件数の減少などにより、目標値を3.6ポイント下回りました。 地域医療従事者向け研修は、新型コロナの影響で院内研修に切り替えたものもあり実施は4回となりました。 病病連携交流会については感染管理の観点から未実施とし、代わりにオンラインでの交流を実施しました。
<p>(4) 高齢患者に安心な退院支援の充実</p> <p>【2019年度】 退院支援件数 1,400件/年 (「退院支援加算2」の算定件数)</p>	<p>入退院支援加算1算定率 23%</p> <p>※入退院支援加算1と入退院支援加算2の主な違い ・病棟への入退院支援職員の配置の要否 ・面談、カンファレンスの実施期限の有無</p>	<p>入退院支援加算1算定率 21.7%</p>	<ul style="list-style-type: none"> 入退院支援の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 退院支援が必要な患者に対して、多職種で連携を行い、支援が必要な患者に適切に対応しています。
<p>(5) 小児医療・周産期医療の確保</p> <p>【2018年度】 小児入院患者数 22人/日 母体搬送受入件数 75件/年</p>	<p>小児入院患者数 18人/日 母体搬送受入件数 75件/年</p>	<p>16人/日 37件/半年</p>	<ul style="list-style-type: none"> 小児入院体制の維持 ハイリスク妊産婦の積極的な受入 	<ul style="list-style-type: none"> 小児入院患者数は16人/日(新生児内科含む)となりました。RSウイルス感染症の流行など入院の需要が増え、前年度から5人増加しています。新型コロナの病床確保のため、小児の病床数が34床から10床になったことで、レスパイト入院には対応できませんでした。 母体搬送受入件数は37件/半年(6件/月)となりました。南多摩保健医療圏で唯一の地域周産期母子医療センターとして、今後も積極的な受け入れを行っていきます。 2020年度に条例を改正して、無痛分娩の受入を開始し、産科ホームページやクォーターリーなどで広報していたところですが、2021年9月に1症例目を実施いたしました。
	<p>【その他】 重点医療機関の維持</p>	<p>維持</p>	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症への対応 	<ul style="list-style-type: none"> 重点医療機関として、新型コロナの専用病床を確保して患者を受け入れています。感染拡大時には東京都からの要請に応じて、病床数を増やして対応しました。 新型コロナのワクチン接種について、個別接種会場として8,392件のワクチン接種を実施しました。

町田市民病院中期経営計画（2017～2021年度）及び事業計画の進捗状況について（2021年度上半期）

2. 収支改善に関する取組 ～収益の向上と費用の削減を図ります～

項目及び中期経営計画の目標値	事業計画目標	事業計画目標に対する結果	主な取組内容	2021年度(上半期)の実績
<p>(1) 病床の安定的稼働</p> <p>【2021年度】 病床利用率 85% 新入院患者数 1,000人/月</p>	<p>病床利用率 85.0% 新入院患者数 903人/月 看護部によるベッドコントロールの一元化 有償利用率 50% 休日診療の体制検討</p>	<p>病床利用率 71.5% 新入院患者数 830人/月 有償利用率 37.5% 検討中</p>	<ul style="list-style-type: none"> 稼働率の低い病床の活用方法の検討 入院患者の円滑な受入 特別室の利用率向上 休日診療の対応 	<ul style="list-style-type: none"> 東京都からの新型コロナの専用病床確保要請に応じつつ、二次救急医療との両立に努めています。新型コロナの収束後を見据えて病床再編についての検討を進めており、10月から小児病棟を移設して病床数を34床から10床へ変更しました。病床利用率は2020年度(68.6%)から2.9ポイント増加、新入院患者数は2020年度(780人/月)から50人/月増加しました。 祝日が月曜日にあたる場合の休日診療について、各部門へのヒアリングを実施中です。
<p>(2) 診療単価の上昇</p> <p>【2020年度】 入院単価 58,000円 外来単価 14,500円</p>	<p>入院単価 64,000円 外来単価 13,500円 ハイケアユニット入院医療管理料の取得</p>	<p>入院単価 68,346円 外来単価 12,921円 準備中</p>	<ul style="list-style-type: none"> 新規施設基準の取得 慢性期患者の逆紹介の推進 算定率向上に向けた取り組みの実施 	<ul style="list-style-type: none"> がん患者の心のケアや痛みコントロールを充実させるため、緩和ケアチームの設置に向けた調整を行っています。要件の1つである精神科医の研修について、院内外の調整を行った結果、7月に受講が完了しました。 また、緩和ケアチームの設置により要件を満たす、緩和ケア病棟の上位施設基準について、取得に向けた準備を進めています。 ハイケアユニット入院医療管理料の設備要件について、東京都と厚生労働省関東信越厚生局に確認を行いました。病棟の人員確保のため、配置の検討・調整を行っています。
<p>(3) 材料費の削減</p> <p>【2017年度】 ジェネリック医薬品使用量比率(DPC) 80% (入院のみ)</p> <p>【2020年度】 材料費削減額 500万円/年 (単価差積算ベース)</p>	<p>薬品費の値引き率 12.0% 薬品費比率 12.5% 診療材料費削減額 400万円/年 (単価差積算ベース) 手術料に対する診療材料費比率 50.0%</p>	<p>16.34% 12.1% 108万円/年 54.5%</p>	<ul style="list-style-type: none"> ベンチマークを活用した薬品費の削減 ベンチマークを活用した診療材料費の削減 	<ul style="list-style-type: none"> 薬品の購入にあたり競争見積及び価格交渉を実施した結果、目標値を4.34ポイント上回りました。 新型コロナの影響により、診療材料の切り替えを審議する院内委員会を十分に開催することができず、安価な材料への切り替えが進みませんでした。また、材料の品薄等による価格高騰のため、値下げ交渉は難航しました。
	<p>【その他】 光熱費 前年度比5%減 部署別消耗品費 前年度比1%減 院内空きスペースの活用方法検討及び活用開始</p>	<p>3.6%増 3.6%増 実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> 光熱費の削減 経費の削減 院内空きスペースの有効活用 	<ul style="list-style-type: none"> 夏の猛暑及び土・日曜日に1階ホールを新型コロナワクチン接種会場として使用した等の影響により各使用量が増加した結果、光熱水費は3.6%増(電気4.7%減、ガス14.9%増)となりました。 2020年度に比べて患者数が回復した影響により、全体的に消耗品費が増加しました。 院内空きスペースの調査で活用可能とされたスペースを新たな小児病棟の開設に活用することができました。

町田市民病院中期経営計画（2017～2021年度）及び事業計画の進捗状況について（2021年度上半期）

3. 業務向上に関する取組 ～病院機能の向上を図ります～

項目及び中期経営計画の目標値	事業計画目標	事業計画目標に対する結果	主な取組内容	2021年度(上半期)の実績
<p>(1) 救急診療体制の充実</p> <p>【2020年度】 救急車による受入患者数 460人</p>	<p>救急車による受入患者数 500人/月 救急からの入院患者数 315人/月 救急応需率 75%</p>	<p>救急車による受入患者数 379人/月 救急からの入院患者数 296人/月 救急応需率 64.9%</p>	<p>・救急隊との連携強化</p>	<p>・新型コロナの感染拡大による救急受入制限により、救急車の受入患者数は大きく目標を下回りました。</p> <p>・救急からの入院患者数は296人/月となり、2020年度実績(275人/月)と比べ21人/月(7.6%)増加し、入院率は28.7%と、2020年度実績(28.0%)と比べ0.7ポイント増加しました。患者の受療行動変化により重症患者の割合が増加したと考えられます。</p> <p>・救急応需率は、発熱外来への対応増や、感染症対策のための診療準備時間の増加などにより目標を下回りました。</p>
<p>(2) 災害拠点病院としての機能の充実</p> <p>【2017年度】 連携訓練回数 1回/年</p>	<p>連携訓練回数 1回/年 DMAT隊1編成の維持</p>	<p>連携訓練回数 未実施 維持</p>	<p>・災害時を想定した医療機関等との連携推進 ・DMAT隊員の養成</p>	<p>・防災訓練を10月17日(日)に実施します。トリアージエリアの開設、実施、情報伝達、職員参集システムなど災害時の診療を想定した訓練を行います。</p> <p>・南多摩保健医療圏災害拠点病院間における通信訓練を10月29日(金)に実施します。災害医療センターの防災FAXや災害時掲示板、広域災害救急医療システムEMISを利用した通信訓練を実施いたします。</p> <p>・医師1名、看護師2名、連絡調整員2名の計5名がDMAT隊員として在籍しており、DMAT隊の1編成を維持しています。</p>
<p>(3) 急性期病院としての質の向上</p> <p>【2019年度】 手術件数 4,360件/年 (麻酔科管理件数 2,900件/年) リハビリ実施単位数 5,000単位/月</p>	<p>手術件数 4,360件/年 (麻酔科管理件数 2,900件/年) リハビリ実施単位数 6,125単位/月 クリニカルパスの見直し 予定入院患者に対する持参薬事前確認の運用拡大 院外処方率 95% 指定抗菌薬届出率 100% 医師のインシデント報告件数 70件/年 MRIの休日・夜間稼働実施に向けた検討</p>	<p>2,091件/半年 (1,339件/半年) 5,924単位/月 見直し実施一部実施 88.7% 92% 56件/半年 検討中</p>	<p>・手術室運営の効率化 ・急性期リハビリの充実 ・クリニカルパスの定期的な見直し ・薬剤業務のあり方の見直し ・医療安全対策の推進 ・休日・夜間診療体制の充実</p>	<p>・手術件数は、2,091件/半年となりました。新型コロナの影響があった2020年度実績(2,002件/半年)と比較して回復傾向にあります。新型コロナの専用病床を確保しつつ、病床運用を工夫して手術件数の増加に取り組みました。</p> <p>・リハビリ実施単位数は、5,924単位/月となり、2020年度実績(5,862単位/月)を62単位/月上回っています。</p> <p>・クリニカルパスの作成及び見直しを27件実施しました。医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、事務などの多職種による経営的な視点、医療的な視点から見直しを行っています。</p> <p>・持参薬事前確認の運用は、6月に眼科、7月に泌尿器科他3診療科と対象診療科を拡大して実施しています。今後は10月、12月と段階的に診療科を拡大し、全診療科での実施に向け進めていきます。</p> <p>・AST(抗菌薬適正使用支援チーム)ラウンドにて指定抗菌薬の適正使用と共に届出の有無を確認し、届出がない場合はラウンド時に提出の指示をしました。更に8月より対象抗菌薬開始から終了時までを各病棟の担当薬剤師が把握し、届出提出有無を確認後、未提出例については医師へ提出を促しています。毎月、医師ごとに作成した届出未提出リストを、担当医師または所属長へ報告し、月末までに提出いただく運用を開始し、100%の提出を求めました。</p> <p>・休日・夜間のMRI対応については、今後、救急患者の受け入れのあり方や休日・夜間のMRI対応を行う上での課題等の検討を進めます。</p>
<p>(4) 病院機能評価の更新</p> <p>【2017年度】 病院機能評価の更新</p>	<p>定期的な業務改善の実施</p>	<p>実施</p>	<p>・業務改善の継続的な実施</p>	<p>・受審に向けたスケジュールを策定し、2022年11月に受審することに決定しました。セルフ監査や院内巡視による点検、模擬審査等を計画しています。また、診療マニュアルの改訂を進めており、これにあわせて業務の見直し・確認を行っています。</p>
<p>(5) 外来機能の効率化</p> <p>【2021年度】 外来患者数 1,000人以下/日</p> <p>【2019年度】 地域連携予約枠利用者数 400人/月 逆紹介件数 970人/月</p>	<p>外来患者数 1,000人/日 以下 逆紹介件数 970件/月 医師事務作業補助者による返書作成割合 55%</p>	<p>外来患者数 969人/日 逆紹介数 990件/月 医師事務作業補助者による返書作成割合 60.3%</p>	<p>・医師の負担軽減</p>	<p>・外来患者数は969人/日となり、2020年度実績(932人/日)と比べて37人/日(4.0%)増加しました。2020年度に引き続き、新型コロナの影響が続いています。なお、2020年度実績との差は、1回目の緊急事態宣言下における患者数が激減したことが主な要因です。</p> <p>・逆紹介件数は990件となり、2020年度実績(1,031件)と比べて41件/月(4.0%)減少しました。新型コロナの入院患者が若年化したことなどが要因と考えられます。</p> <p>・返書作成患者リストを作成することにより返書未返信患者の抽出を容易にしました。これにより、速やかに返書を作成することが可能となり、作成割合が向上しています。</p>
<p>(6) 外来化学療法センターの運営効率化</p> <p>【2019年度】 化学療法実施件数 200人/月</p>	<p>化学療法実施件数 200人/月</p>	<p>化学療法実施件数 189人/月</p>	<p>・ベッドの効率的な運用</p>	<p>・化学療法実施件数については189人/月となり、2020年度実績(197人/月)を下回りました。ターミナルの患者が多かったことや、中止や延期になるケースが多かったことから、前年度と比較して8人/月減少しました。</p>

町田市民病院中期経営計画（2017～2021年度）及び事業計画の進捗状況について（2021年度上半期）

4. 進化・成長に関する取組 ～人材の安定確保と育成を図ります～

項目及び中期経営計画の目標値	事業計画目標	事業計画目標に対する結果	主な取組内容	2021年度(上半期)の実績
<p>(1) 質の高い病院職員の安定確保</p> <p>【2021年度】 (常勤職員数) 医師 93人 医療技術 97人 看護師等 402人 事務 42人 (うち病院専任) 14人 計 634人</p>	<p>病院専任事務職員数の配置検討 臨床研修指導医 20人 時差勤務制導入の検討</p>	<p>検討中 臨床研修指導医 24人 検討中</p>	<p>・病院事務職員の専門性向上 ・研修医師の指導体制の充実 ・柔軟な働き方への対応</p>	<p>・現在、病院専任事務職員については、4月に医事事務1名を採用し、合計15名となりました。事務系職員の業務状況を見える化し、適正な配置を検討します。</p> <p>・臨床研修指導医は24名が在籍しており、今年度は1名が指導医講習を受講し、25名となる予定です。</p> <p>・時差勤務制度の必要性について、コメディカルを中心としたヒアリングを実施中です。</p> <p><2021年9月1日時点> 医師 87人 医療技術 108人 看護師等 397人 事務 41人 (うち病院専任 15人) 計 633人 ※育休及び退職者は含まず</p>
<p>(2) 質の高い医療従事者の育成</p> <p>【2019年度】 医療安全・感染対策講習会延参加人数 3,600人/年</p>	<p>医療安全講習会受講率 100% 感染対策講習会受講率 100% 部門長向けマネジメント研修の実施</p>	<p>医療安全講習会受講率 未実施 感染対策講習会受講率 100% 未実施</p>	<p>・医療安全・感染対策などの研修の必修化 ・マネジメント能力の育成</p>	<p>・前期医療安全講演会については、9月13日から10月15日の間で実施しています。新型コロナ対策のため、動画視聴を中心に実施しました。</p> <p>・新型コロナの影響により、前期感染講演会は、電子カルテやDVDでの動画視聴により実施しました。受講できていない職員に対しては、受講を促したことで、前期は100%となっています。</p> <p>・院内職員を対象としたハラスメント研修を12月に実施予定です。</p>
<p>(3) 職員満足度の向上</p> <p>【2021年度】 職員満足度 65%</p>	<p>職員満足度調査結果に基づいた業務改善 要望対応率 33%</p>	<p>対応検討中</p>	<p>・職員満足度調査結果に基づいた業務改善</p>	<p>職員満足度調査で要望の多かった4つの項目について、業務改善を行うことを目標としており、それぞれの進捗は以下のとおりです。</p> <p>・ICカードの導入 :2022年4月から全職種の職員にICカードを導入し、勤務時間管理システムによる管理を行います。運用開始に向けて準備を進めています。</p> <p>・時差勤務の検討 :時差勤務制度の必要性について、コメディカルを中心としたヒアリングを実施中です。</p> <p>・職員の相談窓口に関する周知 :12月に実施予定のハラスメント研修に合わせ、病院に勤務する全職員に対し、ハラスメント等に関する苦情・相談窓口の周知を図ります。</p> <p>・継続した教育制度の構築 :7月に学習ニーズ調査を実施しました。結果をもとに学習会(教育)の検討を行っています。</p>